

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年7月12日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0893300020		
法人名	有限会社 ハイブリッジ		
事業所名	グループホーム メジロ苑	ユニット名	かえで
所在地	〒319-1106 茨城県那珂郡東海村白方1306-1		
自己評価作成日	平成25年1月30日	評価結果 市町村受理日	平成25年7月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0893300020-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年3月22日	評価確定日	平成25年6月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自治会に入会し地域住民の方々と共に暮らしていけるよう、地域との関わりをできるだけ取るよう努力している。夏祭りや芋煮会等、地域の方に参加を呼び掛け共に楽しんだり、近隣の保育園との関わりを密にしている。日々の生活においても、利用者がいままで暮らしてきた馴染みの関係（近隣のスーパーや美容室など）を崩さぬよう外出については日々行っている。買い物やお見舞いなど職員だけで行くのではなく、利用者と共に出かけることを常に心がけている。利用者やご家族の意向に合わせて、入院時の付き添いや病院受診などを積極的に行っている。利用者を第一に考え『一人ひとりに寄り添い』本人の思いや背景から自己決定や自立支援、認知症等により自己表現が難しくなっている人でも『その人らしさ』を表現し続けていけるよう日々努力している。何より利用者と一緒に生活していることを忘れずに一日一日を楽しく送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は田園や住宅が点在する緑豊かで静かな環境の中に立地している。
利用者は事業所の年間計画にそって事業所内外の各行事に参加したり、以前から付き合いのある人々と交流しているほか、職員が付き添って買い物に出かけるなど、毎日を穏やかに過ごしている。
職員は利用者一人ひとりの気持ちに寄り添い、その人らしく暮らせるようさりげない支援を行っている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念達成のために、ホーム長との面談を行うなど理念達成に向けた取り組みをしている。また、玄関や事務所、ユニットに理念を掲示し自己確認で来るよう取り組んでいる。	管理者や職員で地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成するとともに、玄関やスタッフルームに掲示して共有を図り、実践につなげている。 管理者は年1回実施する職員面談時に理念を確認しているほか、業務日誌に理念を書いた紙を挟み、職員が確認し易くなるよう工夫している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の活動にできるだけ参加できるよう努めている。また、夏祭りやいも煮会などは地域の方に呼び掛け参加していただけるように努めている。 近隣の幼稚園との交流が年々密になってきている。	事業所の夏祭りや芋煮会に自治会や同一法人のグループホームに参加を働きかけ、利用者が交流できるよう支援している。 利用者は職員と一緒に地区のコミュニティセンターで開催する文化祭や地域の運動会を見に行き、地域の人々と交流をしている。 地域の保育園児が年7回来訪し、利用者に歌を披露しているほか、夏休みには地区の中学生の職場体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム長が村からの委託により認知症サポーターの講師として参加している。 地域のケアマネジャーを通して、認知の対応について悩んでいる方がいらっしゃる時は、いつでも相談の乗れるよう呼びかけをしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通し、情報の交換をすると共に会議内容をユニットにおいても話し合うようにしている。 最近ではホームの運営に助言を頂けるようになり、地域の方とのやり取りも密になったと感じている。	運営推進会議は利用者や家族等、村職員、地域包括支援センター職員、元民生委員、在宅マッサージ師、管理者、職員で開催し、事業所の活動報告を行ったり、委員から地域で開催する行事の情報を得ている。 村でインフルエンザが流行したことから、感染症対策について会議で話し合うなど、出た意見等をサービスの質の向上に活かしているが、2ヶ月に1回開催するまでには至っていない。	運営推進会議は委員が出席できるような日程を組み、2ヶ月に1回開催することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所や退所、入院等の連絡事項を随時行うようにしている。今後はホームでの内部研修にも参加していただけることになり、以前よりも関係性が密になってきていると感じている。	管理者は村の担当部署に出向いた際に、利用者の状況を報告している。 管理者は利用者に関する困りごとなどを随時村職員や地域包括支援センター職員に相談しており、家族等が病気で連絡が取れないことを地域包括支援センター職員に相談すると様子を見に行ってくれるなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを目指し日々スタッフ同士で確認し合い取り組んでいる。拘束につながる行為が見られたり不安に思った時はホーム長とも相談し、村の窓口へ確認し対応している。	昨年、大腿骨を骨折した利用者が退院後に再度骨折したため、医師の指示により車いすから落ちないようにベルトを装着したり、ベッドに4点柵を使用しているが、家族等に経過を報告するとともに、職員は2週間に1回身体拘束解除に向けて話し合っている。 身体拘束を行っている間の支援記録は赤字で記入し、身体拘束を解除している間は黒字で記入している。 玄関は早朝や夜間以外は施錠せず、利用者が自由に出入りができるように支援している。 身体拘束排除マニュアルを作成するとともに、年1回全職員で研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会へ参加に参加し虐待について学ぶ機会を持っている。常にスタッフが利用者の尊厳を守るよう努めている。 今後は行っているケアがよいのかを振り返る習慣がつくような体制を作っていけたらと考えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	資料を活用し関係機関へすぐに相談ができるように体制作りはしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は相手の気持ちをきちんと理解し、不明な点や不安な点がある場合には、相手が納得できるまで話し合いをするようにしている。契約終了後であっても、不明な点が生じた場合は随時相談してほしい旨を伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会において無記名でのアンケートを実施した。結果についてはユニットにて話し合いを行っている。また、毎月介護相談員が2名来苑され利用者より聞き取り調査をし、内容等の話し合いを実施、その内容を運営に活かすようにしている。	職員は利用者から何気なく出た話に耳を傾け、要望などの把握に努めている。月1回介護相談員を受け入れ、職員では気付かない利用者の意見や要望を汲みあげるよう努めているほか、年1回家族等に無記名のアンケートを実施し、出た意見等を運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長が面談を行い、状況の確認や要望等を聴くように努めている。面談の内容に関しては、管理者会議等で代表者に伝え、相談するようにしている。	管理者は年1回職員が自己評価をする機会に職員と個別に話し合い、勤務時間や夜勤回数、職員間の問題などを聞いている。職員から出た意見等は、本部の施設長が参加する管理者会議で話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々にあった役割分担を決めることで各自が向上心を持ち働けるよう努めている。また、ホーム長との面談において、希望の研修等を確認し出来るだけ参加できるように取り組んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修を積極的に取り入れるようにしている。 今後は、他の事業所と連携を図り法人全体での研修を行っていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域内や近隣の福祉施設の行事等に行き来したり、介護支援事業所との情報交換や意見交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い生活歴や思いを把握しているとともに、馴染みの関係がつけられるよう何度かお会いしたり体験入所等も実施している。担当のケアマネジャーなどがいる場合は、話し合いの場等を作っていただき、利用者の不安を少しでも取り除ける努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望、ご家族がホームに何を望むか等、話し合いの場を持ち入所前に介護計画の作成を必ず行い、入所後のケアについてご家族との話し合いを十分行うようにしている。内容については全スタッフで必ず受けとめる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者の思いや悩みをゆっくり聞き助言をするほか、状況に応じて地域包括支援センター等へ連絡の対応をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を大切にすべて行ってしまいうのではなく、できることは手伝っていただき、余暇を一緒に過ごし歌を一緒に歌い楽しむなど、一緒に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が利用者に対しての思いが一緒でありたい事からホームからの連絡をまめに行ったり、カンファレンスへの参加も促している。また、場合により職員が仲介役になることで、ご本人とご家族の関係が崩れないよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの馴染みのあるお店や友人等に会いに出かけていき関係が切れぬよう努めている。美容室なども今までと同じ所へ行けるよう支援している。また、入院などにより退所されてしまった方などとのつながりも大切にし、お見舞いなど関係の継続に努めている。	利用者の希望にそった馴染みの場所への外出を支援しており、職員は利用者が以前住んでいた家のそばを通れるよう支援したり、自宅の鍵を持っている利用者が自宅の様子を見に行く場合は家族等に報告してから出かけるよう支援しているほか、馴染みの美容院や洋品店、友人宅に行けるよう付き添っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	円滑な関係作りができるような場面作りをしたり、一人ひとりが孤立しないよう仲介に入るなどし対応に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もお祭り等へ参加等を促したり、手紙や電話等で利用者やご家族の状況確認ができるよう心がけ、場合により葬儀等にも職員、利用者共に参列もしている。また、関係機関と協力して本人やご家族の相談や支援等に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いは何なのか？を常に感じとる努力をしている。うまく思いを伝えられない方に関してもスタッフ間で情報の共有ができるように申し送り等をうまく活用している。思いの把握が困難な際は、随時カンファレンスを開き本人本位のケアをするためにどうするか？検討している。	職員は食事や入浴時に利用者とゆっくり話をする時間を設け、思いや意向の把握に努めているほか、把握が困難な利用者の場合は表情やしぐさなどから検討している。 職員は把握した利用者の思いや意向を朝のミーティングやカンファレンス時で話し合っ共有するとともに、アセスメント表に記録している。 職員は利用者の話から得た情報を基に、利用者がかつてしていた昔の遊びをレクリエーションに取り入れて楽しめるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、介護支援専門員などから生活情報を収集し、安心して生活できるよう馴染みの物を持参していただき、過ごしやすい環境作りに努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやカンファレンス等で利用者の状態把握に努めている。また、管理者や介護支援専門員、看護師も現場に入り状態の把握に留意している。ユニット間の申し送りを取り入れ、すべての利用者の生活状況が把握できるように努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の申し送りやカンファレンスの中でスタッフ間の意見交換やケアの統一を図るよう努めている。また、家族と話す場を作り希望や要望・思いを聴きとり、利用者とは直接的な本人の言葉・気持ちを取り入れ介護計画を作成している。	介護計画は利用者や家族等の意見を取り入れながら管理者や職員で話し合い、長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月と定めて作成するとともに、月1回モニタリングを実施して現状に即した介護計画に見直している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個別の生活記録を記載し日々の状態変化を把握するようにしている。記載の仕方も会話の内容や対応の前後の様子まできちんと記載できるように努力している。また、申し送りノートを活用しスタッフ間で情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携している病院があり緊急性がある場合でも24時間体制で協力を得ている。また入院した際、ご家族が付き添いができない場合など付き添い支援や自宅への外出支援など状況に合わせた支援を行っている。日々の柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組めるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防、幼稚園や小学校、ボランティアなどに協力を依頼し、安心して楽しい生活ができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関のほか利用者のかかりつけ医を大切に受診している。かかりつけ医の診療情報や往診医の受診結果等を記録、またホーム内での生活を経過記録としてまとめ利用者とかかりつけ医のつなぎ役として支援している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援しているほか、週1回近隣にある協力医療機関の医師による訪問診療を受診できるよう支援している。 症状が重くなった場合は協力医療機関の医師に紹介状を書いてもらい、他病院への受診を支援するなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し状態の変化に応じた対応ができるよう日々の生活から関わりを持つようにしている。オンコール体制で24時間連絡を取れるよう職員との連携を図っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は頻繁に面会に行くことで病院関係者との情報交換を密に行っている。入院時の緊急連絡先についてもご家族様だけではなくメジロ苑も連絡先として対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り同意書について本人、ご家族に説明し同意を得ているとともにかかりつけ医と相談し行っている。入居者の状況に合わせその都度話し合い、入居者に合った支援の目標、方向性をご家族と共にチームとして検討している。	事業所は看取りの経験はないが、契約時に利用者や家族等に重度化や終末期に向けた事業所の対応方針を説明するとともに、利用者や家族等の意向を確認し、管理者や職員、医師などの関係者で方針を共有して支援に取り組むこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡方法を掲示し徹底している。今年度は心肺蘇生法等の救命救急を消防署に依頼し実施予定である。その際には地域住民の方の参加も受け付け中である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署との連携により避難訓練を定期的実施している。訓練後は消防署の方に総括をしていただきその都度改善に努めている。運営推進会議により地域との協力体制を築いていけるよう話し合いをし次回の訓練時には参加していただけることになった。わずかではあるが食料の備蓄と発電機を備えている。	年2回火災や地震を想定した避難訓練を実施しているが、近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 避難訓練後は消防士や防火管理責任者から話を聞いたり、職員で反省会を開き、訓練で明らかになった課題を話し合うとともに、実施記録を作成している。 災害時に備えて米や飲料水、缶詰など、最低でも3日分の食糧を備蓄している。	災害時における近隣住民との協力体制を構築するためには、近隣住民の避難訓練への参加が欠かせないため、近隣住民が避難訓練に参加し易いよう、土曜日や日曜日に避難訓練を実施したり、日頃から協力体制を築くよう取り組むことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者やご家族のプライバシーを尊重し、通信の作成などにも配慮したり、利用者に対しての言葉け（呼び方）もご家族に確認し失礼のないよう配慮している。	管理者は個人情報保護方針をスタッフルームや玄関に掲示し、職員が利用者の人格を尊重してプライバシーを損ねない対応をするよう注意を促しているが、プライバシー保護に関する職員研修を実施するまでには至っていない。 個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかるロッカーに保管している。	プライバシー保護に関する研修や接遇の研修を定期的実施することを期待する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりや会話の中でさりげなく現れる感情や希望を読み取れるよう配慮している。何気ない表情や動作、仕草などを見逃さずに本人の気持ちに寄り添った援助を心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて過ごして頂いている。表情や言葉、体調をしっかり観察しコミュニケーションを通して希望や要望を読み取り、その一日の過ごし方を検討し援助に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に合わせて理・美容室への付き添いをしている。また、毛染め等は本人の好みに合わせて購入しスタッフが対応している。移動が困難な方に対しては出張美容を利用している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作り（皮むき等）をしたり利用者の好みの物を把握しお楽しみ献立として提供したりしている。下膳や食器洗いなど出来ることを見つけてスタッフと一緒にやっている。	利用者はテーブルを拭いたり食卓のゴミ入れの箱を折るほか、台所に立って調理をするなど、一人ひとりの力量に応じて役割を担っており、職員は食事の際「今日の昼食は○○さんが作ってくれました」と調理を担当した利用者の名前を知らせている。職員は嚥下が困難な利用者に注意を払ったり、食べこぼしに気を配りながら同じテーブルで一緒に食事をしている。正月や雛祭り、節句、敬老会などには行事食を提供し、食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて食事形態の工夫をしている。毎食の食事量チェックや状況により水分量のチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりにあつた方法で毎食後の口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつを出来る限り使用せずに済むように利用者一人ひとりの排泄パターンを、排泄表などを用いて把握しトイレでの排泄、排泄の自立に努めている。	職員は排泄チェック表で利用者毎の排泄パターンを把握するとともに、適切にトイレへ誘導し、おむつの使用量軽減につなげている。夜間でもトイレへ誘導したり、ポータブルトイレを使用し、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に配慮しヤクルト・牛乳などを飲用していただいたり、腹部マッサージやホットパックなどいろいろな工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者一人ひとりに合わせくつろいだ入浴ができるよう努めている。(時間帯・入浴時間・温度など) また、季節に応じ菖蒲湯やゆず湯などにし同時に季節感を味わえるように努力している。	1日おきに入浴を支援するとともに、利用者の希望にそって夕食後や寝る前に入浴ができるよう支援をしている。入浴を拒む利用者の場合は時間をずらしたり、声をかける職員を替え、入浴ができるよう支援をしている。季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯を取り入れたり、入浴剤を使用して利用者が入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や昼寝など一人ひとりの生活習慣を尊重している。また、なかなか寝れない方などは寝る前に入浴や足浴をしていただいたり、横に付き添い安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を活用し用法や用量の把握をするよう努めている。医師、薬剤師、看護師の連携により薬剤変更時の確認など連携を密にしている。また、服薬時は日付、名前、時間の確認を声に出し再確認し、きちんと飲み込まれているか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、テーブル拭き、お箸配りなどそれぞれの役割を持っていたき生活していただいている。本人の好きなことを知り一緒に行うことで、生活のなかに張り合いや楽しみが出来る様に支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	本人の希望にて買い物、ドライブ、 散歩等戸外へ出かけられるよう努め ている。ご家族と一緒に出かけられ るような機会を作るように心がけ ている。	日常的な買い物のほか、美容院や本屋な どへ出かけられるよう支援し、村内はもと よりひたちなか市や日立市などへの外出も 支援している。 職員は利用者や家族等と相談しながら花 見や苺狩り、紅葉狩り、海など、希望に そって外出が楽しめるよう支援している が、家族等が参加する機会は少ない。	利用者と家族等と一緒に外 出できる機会を設けるととも に、家族等に参加を働きかけ ることを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる	お金を持つことを希望されている方 に対してはご家族ときちんと相談の もと管理していただくようにしてい る。また、買い物に行った際などは 自ら支払いができるよう支援してい る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話を したり、手紙のやり取りができるよう に支援をしている	いつでもご家族に電話できるよう支援 している。また、手紙のやり取りもご 家族と協力により支援し、クリスマス カードや年賀状など地域の小学校や家 族とのやりとりもしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	季節の花を飾ったり、行事等の飾り 付けをするなどし居心地の良い空間 づくり努めているまた、毎月のカレ ンダーや写真を掲示するなどし季節を 感じれる工夫をしている。	居間兼食堂に利用者が制作した吊るし飾りを 下げたり、観葉植物を飾っているほか、加湿器 やテレビ、ソファを配置し、居心地よく過 ごせるよう配慮している。 居間兼食堂に天窓を設置し、自然の光を取り 入れている。 デッキへは自由に出入りができ、周囲の景色 を眺めながら季節が感じられる環境となってい る。 並行な廊下と廊下の上に個室トイレが3つ並 んでおり、どちらの廊下からでも出入りができ るようドアを2ヶ所設け、便利に利用ができる 造りとなっている。 利用者の安全に配慮してトイレや浴室に手す りを設置している。 風呂は家庭的な浴槽となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアやバルコニー、地域交流スペースの活用により気の合った利用者同士がゆっくりと過ごせるようにしている。また、フローア内にたたみの空間を作り一人ひとりの時間を過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前から使い慣れたものなどを使用し過ごしやすい環境作りに努めている。また、配置等に関しては、安全な空間作りを基に本人やご家族の要望も聞き入れるようにしている。	居室には洗面台やベッド、クローゼット、照明器具が備え付けられている。利用者は自宅に居た時と同じようにテーブルやタンス、パソコン、ぬいぐるみ、家族の写真などを自由に持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーという施設の条件を生かし、車いすやシルバーカーの使用など一人ひとりの状態に合わせて生活している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームメジロ苑

作成日 平成25年7月8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議が2ヶ月に1回、年6回開催できていない	定期的な開催をする	年間計画を作成し予定通りに開催する	12ヶ月
2	13	災害時の近隣住民との協力体制が取れていない	近隣住民と協力体制の構築	訓練実施日を土日にし訓練後に炊き出し訓練もかねた芋煮会を開催することで地域住民の参加を促す	12ヶ月
3	14	プライバシーに関する研修が実施できていない	内部研修の実施	内部研修にプライバシー関係の内容を入れる	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。